

# 田川郡教育研究所 所報 第117号

発行日 平成31年3月8日(金)  
発行所 田川郡教育研究所  
<http://tagawa-lab.sakura.ne.jp/>

## 平成30年度 田川郡教育研究所の主な事績

### I 研究

#### 1 田川郡教育研究所の研究主題に基づく実践及びデータの収集

- (1) 研究所員による理論研究並びに研究主題の設定  
「生きる力」を育む学習指導の研究（2年次）  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して～
- (2) 田川郡内小中学校教科等部会での研究員を中心とした情報交換及び研究・実践・記録
- (3) 各教科・領域での実践の記録を年度末に研究紀要として集約

#### 2 教育資料の収集と整備及び活用の奨励

- (1) 田川郡内外小中学校の実践事例等の収集

### II 人材育成

#### 1 研修

- (1) 研修員研修会
- (2) 研究員研修会
- (3) 教育実践発表会並びに教育論文表彰式・発表会
- (4) 田川郡町村教育委員等研修会
- (5) 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会
- (6) 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会
- (7) 教育実践研究に関する研修会
- (8) 講師等授業力アップ講座

#### 2 支援

- (1) 小・中学校教科等部会への研究奨励と支援
- (2) 田川郡小・中学校人材育成プログラムへの支援と助成

### III 発行物等

#### 1 研究物等の発行

- (1) 研究紀要（関係教育機関へCDで配布）
- (2) 所報（年間2回発行）
- (3) 田川郡小学校・中学校教職員名簿

#### 2 ホームページでの情報提供

- (1) 研究所の研究内容・活動内容及び田川郡内の教育関係情報等の紹介
- (2) 教育実践等の紹介
- (3) 研修会のお知らせ

### IV その他

- 1 田川郡教育研究所教育論文の募集・審査・表彰及びふくおか教育論文作成の奨励
- 2 総会（年間1回）の実施
- 3 研究所理事研修会（年間2回）の実施
- 4 所員研修会（年間7回）の実施

# 平成30年度 研究 の 概 要

## 1 研究主題

「生きる力」を育む学習指導の研究（2年次）  
～ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して ～

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会の要請と新学習指導要領の動向から

知識基盤社会といわれる現代にあつて、近年顕著となっているのは、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会変化が予測を超えて進展するようになってきていることである。このような予測不能な社会を生きる子どもたちは、その変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合つて関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮しながら、よりよい社会と幸福な人生の創り手となることが望まれる。

このような状況を踏まえ、中央教育審議会答申（平成28年12月）では、今後、子どもたちに育成すべき資質・能力は、①生きて働く「知識・技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」であるとしている。そして、学校においてこれらの資質・能力を育むためには「社会に開かれた教育課程」の理念に立脚した組織運営の改善と授業改善を図ることが重要であるとし、改善の視点として「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を提起している。

新学習指導要領では、従来の各教科等の指導による「何を学ぶか」に加えて「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が子どもたちに育成すべき三本柱として、求められるようになっている。さらに、各教科等の目標や内容も再整理され「何ができるようになるか（資質・能力）」「何を学ぶか（内容）」が明確化されている。また、総則では「どのように学ぶか」について、教育課程編成・実施の在り方（カリキュラム・マネジメント）や子どもの主体的、対話的で深い学びを実現するための配慮事項が示されている。今後、各学校では新学習指導要領で示された内容をもとに教育課程の見直しや授業改善を進めていくこととなる。

以上のことから、新学習指導要領の全面実施（小学校：平成32年度、中学校：平成33年度）を見据え、本主題を掲げた実践研究を行うことは、本郡学校教育の充実を図る上で大変意義深いと考える。

### (2) 田川郡の児童生徒を取り巻く状況から

エネルギー革命に伴う炭鉱閉山の影響は、長年にわたつて児童生徒の生活に大きく影響を与えてきたと言われている。本郡の状況を見ても、経済的に厳しい状況にある家庭が依然として多い。また、児童生徒を取り巻く環境は、急速に変化し、特に情報通信機器の進歩は目覚ましいものがある。携帯電話やスマートフォンの所持率は、学年が上がるごとに高くなり、このことが基本的な生活習慣の定着や健康面にも少なからず影響を及ぼしていると考えられる。

本郡の学校教育においては、子どもたちの学力の向上が大きな課題とされて久しい。その中で、児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図るための様々な試みがなされていることは資料1にも見て取れる。

(56)授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか					(58)授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか				
	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
全国	52.9	31.8	11.6	3.6	全国	42.5	41.9	12.1	3.5
福岡県	51.2	32.3	12.6	3.8	福岡県	42.6	41.8	12.1	3.5
田川郡	44.6	31.6	16.3	7.2	田川郡	42.9	41.8	12.1	3.2

(58)授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に抜けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか					(60)授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に抜けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか				
	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
全国	29.5	45.6	20.1	4.7	全国	23.7	47.6	22.8	5.7
福岡県	25.1	46.2	23	5.6	福岡県	19.5	47	26.7	6.7
田川郡	22.8	37.9	26.2	12.9	田川郡	24.3	43.1	25.9	6.5

【資料1 平成29年度実施 全国学力・学習状況調査より】

しかしながら、資料2のように、国語A問題・B問題、算数A問題・B問題、数学A問題・B問題の平均正答率は、いずれも全国平均や福岡県平均よりも低く、特に思考力・判断力・表現力を問うB問題のポイント差は大きい。また、小学校は、少しずつ改善傾向にあるものの中学校では、横ばいの状況が続いている。

平成29年度 全国学力・学習状況調査 (小学校第6学年・標準化得点)					平成29年度 全国学力・学習状況調査 (中学校第3学年・標準化得点)				
	国語A	国語B	算数A	算数B		国語A	国語B	数学A	数学B
全国	100	100	100	100	全国	100	100	100	100
福岡県	101.8	100	100.8	98	福岡県	99.6	98.5	97.4	97.2
筑豊地区	98.2	94.2	96.6	90.2	筑豊地区	92.7	87.7	83.7	81.9

【資料2 平成29年度実施 全国学力・学習状況調査より】

以上のことから、グループでの交流活動や自分の考えを発表する場などの機会は設定しているものの、活動そのものが目的になっている場合も少なからず見られ、児童生徒に確かな学力をつけることに必ずしもつながっていないと考える。

したがって、本研究においては、活動そのものを目的とするのではなく、活動の中で「何を学び」「何ができるようになるのか」を児童生徒に実感させていくことで「主体的、対話的な深い学び」を実現することができ、「生きる力」を育むことにつながりものと考えた。

### (3)これまでの研究の経緯から

当研究所では、これまでも下表のように、学習指導要領の改訂などを機に研究主題等を設定し、郡小中学校長会主催による教科等部会と連携して実践研究に取り組むことで、本郡教育の充実に一定の成果を上げてきた。ただ、過去の研究主題は時々の全国や本郡の教育課題を踏まえ「学力向上」、「評価」、「言語活動の充実」等、広く取組の方向性を示すものであり、各教科部会等での取組の自由度は高かった。反面、取組の具体化が不十分であった場合には公開授業研修等での視点が定まらず、協議が深まらなかったり、検証が十分できなかつたりといった課題があった。

そこで、今回の主題については、中教審答申や新学習指導要領等の内容を踏まえた目指す児童生徒の姿として設定した。また、児童生徒に身に付けさせる資質・能力やそのための手立て（主体的・対話的で深い学びの実現）についても示している。これにより、各教科部会等で本主題等を教科の本質や特質、専門性を踏まえて具体化することで、実践研究の一層の深化が期待できる。

以上のことから、具体的な児童生徒の姿として設定した本主題は各教科部会等における実践研究の活性化を促す上で意義があると考えられる。

年 度	研 究 主 題	国の動向
平成15～17年度	学力実態及び学力向上の取組に関する調査・研究 ～学力検査結果の分析と実践事例の収集を通して～	学習指導要領の一部改正
平成18～22年度	学力向上の取り組みに関する研究 ～生きる力を身につけた児童生徒の育成～	全国学力学習状況調査開始
平成23～28年度	学習指導と評価に関する研究 ～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～	学習指導要領改訂 小23、中24実施

### 3 主題・副主題の意味

#### (1)「生きる力」を育む学習指導とは

「生きる力」を育む学習指導とは、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動において、子供の発達段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げる3点の資質・能力を偏りなく育成できるような授業づくりを行うことである。

- ① 生きて働く知識・技能の習得させること。
- ② 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- ③ 学びに向かう力・人間性等を涵養すること。

#### (2)「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とは

##### 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び

##### 【対話的な学び】

子ども同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める学び

##### 【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善とは、この3つの学びの視点から学習過程の質的改善を行うことであり、そのことを通して、「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」を育成するものである。

主体的・対話的で深い学びの実現に向け実践していく上で、具体的には、次の7つの事項を意識した授業改善を行っていく必要がある。

- ① 各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに想像したりすることに向かう学習の過程を重視する。
- ② 言語活動の能力を育成するため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、各教科等の特質に応じて、子供の言語活動を充実する。
- ③ 情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークな

どの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る。

- ④ 子供が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫する。
- ⑤ 子供が生命の有限さや自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視する。
- ⑥ 子供が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、子供の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習活動が促されるよう工夫する。
- ⑦ 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、子供の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実する。

## 4 研究の目標

各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動等において、新学習指導要領がめざす「カリキュラムマネジメント」「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善について究明する。

## 5 研究の内容

- (1) 各教科・領域等の学力や児童生徒の実態を分析する。
- (2) 各教科・領域等における主題を設定する。
- (3) 各教科・領域等における主題を達成すべき学習指導等を明らかにする。
- (4) 各教科・領域等において主題に基づいた研究実践を行う。
- (5) 各教科・領域等において実践事例としてまとめ、成果と課題を明らかにする。

## 6 研究仮説

各教科、領域等において下のような手立てをとり、子どもたちに育成すべき資質・能力を（三本柱「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」）明らかにし、授業改善の実践研究を進めていけば、児童・生徒が新学習指導要領で求められる力を身につけることができるであろう。

- (1) 田川郡教育研究所と郡小・中学校校長会が連携し、各教科等部会を組織し、教職員が希望する教科等の理論や指導技術を磨く場を設定する。
- (2) 各教科等部会において、当該教科等における学力や児童生徒の実態や課題を明確にし、以下のように授業改善を推進する。
  - ①子供たちに育成すべき資質・能力の明確化
  - ②主体的・対話的で深い学びの実現の具体策の明確化

## 7 研究の方法

### (1)研究の組織

#### ①研究所員研修会

- ア 構成：所長1名、副所長2名（小・中学校校長より各1名）、幹事1名（副所長1名が兼任）、書記1名、主任指導員2名（小・中学校教頭より各1名）、指導員4名（小・中学校主幹教諭より各2名）
- イ 役割：研究主題や研究構想の設定、研究の年次計画の立案等、研究推進の中核となる。主題にかかわる理論研究、実態調査等をもとに研究の見通しを設定し、授業設計の方向を示す。研究員との連携を図り、実証の援助を行う。

## ②研究員研修会

- ア 構成：研究所所員、研究員（小・中学校各教科等部会の代表）
- イ 役割：教科の独自性を生かしながら、研究主題に基づいた指導内容・方法についての情報交換や協議を行い、課題解決に向けて計画立案し推進する。

## ③研究の組織図



## (2) 研究の計画

### ①1年次

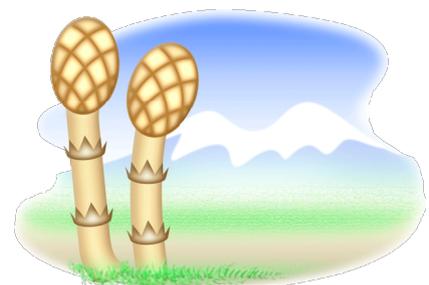
- ア 研究主題の設定
- イ 主題に基づく理論研究
- ウ 実践研究（各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動など）
  - ◇授業計画 ◇検証授業 ◇考察・まとめ
- エ 研究のまとめ
- オ 研究紀要の作成

### ②2年次以降

- ア 研究主題・副主題の検討
- イ 主題に基づく理論研究
- ウ 実践研究（各教科・道徳科・外国語科外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動など）
  - ◇授業計画 ◇検証授業 ◇考察・まとめ
- エ 研究のまとめ
- オ 研究紀要の作成

## 8 研究員の役割

研究実践の中核となる。教科等部会での理論研究・実態調査をもとに研究仮説を設定、授業を通してデータの収集・分析を行い、研究主題の解明にあたる。



# 研究発表校の紹介

## 川崎町立川崎東小学校

平成29・30・31年度 福岡県重点課題研究・委嘱事業  
川崎町立川崎東小学校「中間報告会」

【実施日】平成30年11月29日（木）

【研究主題】

健康な生活を送ることができる力を身につけた児童の育成  
～健康カリキュラムづくり・授業づくり・健康教育推進環境づくりの工夫を通して～

### 1 重点課題研究の内容に対する基本的な考え方

本校の児童の多くは、業間・昼休み、放課後など多くの場面で運動したり、遊んだりしている。また、学校行事や地域のスポーツ行事では、体力向上を図る取組を行ったり、児童委員会活動では、健康に関する知識を高めたりする取組を意図的に仕組んでいった。また、本校児童の実態アンケート調査から、「食」について「食べ物の学習を通してもっと健康な体になりたいと思いませんか。」の問いに83%の児童がなりたいと答えている。しかし、「健康について学校で学んだことを家でも活かそうとしていますか。」についての回答は、46%であり、高学年になるにつれてその割合は減少する傾向が見られた。

さらに、本校の「生活習慣」に関するアンケート結果においては、就寝時刻が、「午後10時以降」と回答した児童が、どの学年においても10%以上であることや、朝食を食べる習慣が定着した児童が76%(全国95.4%、福岡県93%)と低い実態にあることがわかった。この結果からも、自らの健康を改・維持・向上させるために自分の課題やその解決方法について見通しをもって考え、よりよい解決のために判断し表現する児童は十分に育っていると言えない。

そこで、「食」「生活習慣」「運動」を通して、自らの健康を見つめ、改善・維持・向上していくために考え、自らが実践できる力を身に付けていくことが必要であると考え。

### 2 取り組んだ内容及び工夫した点

#### 〈視点1〉実践する力につながる資質・能力を身に付ける授業づくり

- 実践する力につながる資質・能力を身に付ける授業づくりをするために視点を明確にして単元等に位置付けたことは、有効であった。
- 来年度に向けて視点を絞って研究を推進していく必要があると考える。また、学びの視点の内容についても児童の実態に応じた本校独自の視点の内容を検討していく必要と考える。

#### 〈視点2〉学校教育活動全体におけるカリキュラムの編成

- 学校教育活動全体におけるカリキュラムの編成のために、年間健康カリキュラムとそれを具体化した7つの目指す児童の姿を関連させたことは、年間を通した健康教育を行う上で、効果的であった。
- 今後は7つの目指す児童の姿（評価）の内容や各学年の系統性について、具体的に検討していく必要があると考える。

#### 〈視点3〉学校における健康教育推進体制等の整備

- 継続的に児童運営委員会・各委員会を通して活動したことや、健康教育に関する学習参観日を設定し保護者に公開したことは、健康に関する啓発や意識を高める上で効果的であった。

- 健康教育の視点を意識した活動を今後も継続して取り組んだことは効果的であったが、今後は、児童が健康について意識できるように掲示物等を可視化していく必要があと考える。また、今後は、家庭だけでなく地域を巻き込んだ取り組みを意識した取組を図っていききたい。

## 研究発表校の紹介

### 川崎町立鷹峰中学校

平成30年度 第38回 福岡県中学校保健体育研究発表会 公開授業

【実施日】 平成30年10月26日（金）

【研究主題について】

生涯スポーツを目指した保健体育学習のあり方  
～「できた」という喜びを味わえる授業づくりを通して～

保健体育科学習において、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することや主体的に楽しく運動を継続するような能力と態度や、友だちと共感することのできるような温かい心、そして、それらの基盤となる体力を身につけることは重要であると考え。そこで、生徒が運動の楽しさや「できた」喜びに触れ、「もっとやってみたい」という運動に対する前向きな気持ちや自信を引き出させることで、それらの積み重ねが今後の生涯スポーツにつながり、生涯にわたって学ぶことを豊かにしていくと考え、本主題を設定した。

#### 【研究の実際】

生徒が「できた」という喜びを味わえるように保健体育授業において、以下のような取組を行った。

#### ① 動きのイメージづくりや動きのポイント確認のためのICT機器の活用。

ICT機器を使って映像を見せることによって、具体的なイメージをもつことや、スローモーションでの映像、2つの映像を同時に見比べることで、意識してほしいポイントを細かく伝えた。また、トップ選手の動画を視聴させることで、優れている点や運動意欲の向上につなげた。

#### ② 「できた」に近づくためのワークシート（「チャレンジシート」・「アドバイスシート」）の活用。

ワークシートの活用として、めあて、めあて達成のための技術習得に意識すべきポイント、その項目ごとに自己評価までが行える、「チャレンジシート」を活用した。また、グループでの運動観察から、自己の考えを広げ深めたり、観察・実践者ともに達成感を味わえるように、付箋に書いてアドバイスを送る、アドバイスシートの活用を行った。

#### ③ 主運動につながる取り組みやすい運動から始める、「チャレンジスタート」

運動始めでの工夫において、体育・運動に興味関心や意欲、安心、達成感へのきっかけとなるように、主運動につながる取り組みやすい運動、「チャレンジスタート」を行った。高度な技術を必要とせず取り組みやすい運動や、本時のねらいとする運動に近い動きを取り入れた運動を行った。

#### 【成果と課題】

**成果** ICT機器を使うことによって、生徒は、実際の完成した技やスローモーションの映像から具体的なイメージをもつことができた。また、「自分もやってみたい」という意欲にもつなげることができた。

シート活用では、ポイントを意識して運動に取り組むことができ、「これはできた!」、「このポイントを意識すれば、めあてが達成できた!」と生徒から聞くことができた。

チャレンジスタートでは、運動の楽しさや、自分にも「できた」という、達成感を授業の

始めに感じることができ、その後の授業への意欲につながった。小さな成功体験を積み重ねていくことにより意欲的に取り組むことができ、最終目標達成に近づくことができ、学習意欲を喚起させることにつながることができた。

**課題** チャレンジスタートにおいて、難易度別のチャレンジ等の工夫も取り入れながら、達成感をより味わえるようにする工夫が必要であると感じた。

アドバイスシートの活用で、より効果的な方法として、前時に生徒一人ひとりに自己課題を把握させておき、その自己課題をチェックしてもらうことで技術向上・習得ができるとも考えられる。また、アドバイス活動に対して、達成できているかどうかのチェックリストがあるとより技術の向上がみられると考える。

# 人材育成の取り組み

田川郡小学校長会

## 組織的な若年教員育成の取組

### 1 はじめに

田川郡でも教員の大量退職・大量採用に伴い学校現場での急速な世代交代が進んでおり、実践的指導力や学び続ける意識を有する人材の育成が大きな課題である。また、教員の多忙化や学校の小規模化により、先輩教師から教師としての知識や指導技術等を伝達する機会が著しく減少している。そこで、田川郡小学校長会では、田川郡内の若年教員育成を組織的・計画的に行うようにした。

### 2 若年教員育成の基本的な考え方

- 各学校での学びを補完する職場外での研修の場として、各教科・領域等の指導のスペシャリストに学び、実践的指導力を育成する。
- 若年教員が疑問点や悩みを相談したり、共有し合ったりしながら、指導力の向上を目指す。

### 3 取組について

#### (1) 若年教員育成の目標

主として学級担任を想定した実践的指導力を磨き、教職に対する意欲的な姿勢や学び続ける意識を育てる。

#### (2) 対象 田川郡内の教職経験10年以下の教員

#### (3) 運営組織 田川郡小学校長会及び小学校教頭会若年教員研修担当 各部運営委員・各学校連絡係

#### (4) 申込者数及び参加者数

##### ① 申込者数

	対象者	申込者数	申込率
郡全体	105人	60人	57.1%

##### ②参加者数及び参加率

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
期日	6月12日	8月7日	9月4日	11月6日	1月15日	2月28日
参加者数(人)	38	34	55	51	28	実施予定
参加率(%)	63.0	56.6	91.6	85.0	41.6	実施予定

#### (5) これまでの実績

- 講師は、田川市郡の教頭、主幹教諭、教諭、県センター及び筑豊教育事務所指導主事等
- 研修形態は、講話、実技、模擬授業等
- 研修内容は、教科・特別活動・道徳の指導、学級経営、生徒指導等

#### (6) 本年度の研修及び主な感想

回	研修日	研修内容	講師
1	6月12日(火) 19:00	○ 学力が上がる授業づくりのポイント ○ 本年度の研修の進め方について(説明) 会場:香春なごみの杜	教諭 宮村 歩 氏
	○ 授業づくりについてとても勉強になりました。宮村先生が、毎時間どれだけ授業に情熱をかけているのかが分かりました。一日でも早く授業で勝負できるようになりたいです。今日学んだ事を一つでも算数の授業づくりや学級経営に生かしたいと思いました。		
2	8月7日(火) 17:30	(参加者選択制の講座) ○ これで安心?楽しい音楽学習指導 ○ 体育科の学習指導の基礎・基本Ⅲ 会場:糸田小学校 多目的室・体育館	教諭 山口 由一郎氏 教頭 中瀬 博之 氏
	○ とても楽しく勉強させていただきました。拍の流れをつかむためのテクニックや鑑賞の際の視点の持たせ方等等とても参考になりました。私は、現在低学年の担任をしていますが、低学年段階での教える内容やならいを明確に示していただき、とても分かりやすかったです。子ども達と早く音楽がしたくなりました。 ○ 実技講習をしていただけたので、子ども達がどんなことを感じながら受けているのが分かりました。体育の授業をするためには、めあて・まとめを明確にしなければいけないことを再確認できてよかったです。また、個に応じた指導をするために「場づくり」が必要で、「めあて①」「めあて②」など場に応じためあての提示が必要であるということが分かりました。		
3	9月4日(火) 19:00	○ 小中学校9年間を見通した算数科・数学科の学習指導の在り方 会場:香春町民センター	主任指導主事 磯部 年晃 氏
	○ 小学校、中学校の全国学テの問題を分析しながら、「間違えた子どもはどう間違えたのか。「どう考えたから、その解答をしたのか。」等思考の過程を考えていくことが大切だと感じました。実際、分析をしてみても自分のクラスの子どもの実態とも重ね「こんな力が弱いから、この間違いをするんだ。」など課題が見えてきました。今、小学校段階で身に付ける力は、これから中・高校と続く数学的な考え方に繋がっていくことが分かりました。		
4	11月6日(火) 19:00	○ 日常の学習に生かせる国語科の授業づくり 会場:香春町民センター	教諭 中原 正文 氏
	○ 教材研究の仕方がとてもよく分かりました。小学校の頃の授業を思い出してみると「問いがあつたり、考えたりする」国語の授業は好きでした。私もそんな授業ができる教師になりたいです。まずは、「自分の感性を大事にして、子ども達とどんなことを考えていこうか。」と思います。そんな教材研究から始め、国語の授業づくりに挑戦したいと思います。		
5	1月15日(火) 19:00	○ 子どもの「心が育つ、学力が伸びる」学級づくり ～参加者全員のグループ別ワークショップ～ 会場:香春町民センター	ファシリテーター 田川郡小学校 教務主任会 5名参加
	○ 今日の研修では他校の先生方の実践を聞くことができとても勉強になりました。まず、それぞれの実践から課題を見つけ、その現状や改善策を考えていく中で、自分の悩みと共通することや新たな視点で考えさせられる内容がありました。私たちのグループでは「学力」「自尊感情」「親」の3つをテーマとして話し合いをしました。その中で、目の前の子どものためにできることとして、子どもとたくさん関わり、よりよい姿を見せ、価値づけて賞賛することは大切だと思いました。子ども一人一人の実態に応じて個に関わり、集団として関わることで目指す姿へと近づけていきたいです。		
6	2月28日(木) 19:00 ※実施予定	○ 福岡県教育行政の課題・展望 ～田川郡小学校教師への期待～ ※田川郡中堅教員研修会と合同開催 会場:香春町民センター	校長 奥 浩幸 氏 ※元筑豊教育事務所 主幹指導主事

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

- 「講座回数を減らしたことで参加者への負担が減ったこと。昨年度の反省を生かした内容を講座に反映したこと。」等の見直しを行った結果、参加者数、参加率は若干向上し、継続の参加者も増加した。
- 教頭会、教務主任会と連携して講座を企画・運営することができた。

##### (2) 課題

- 各部毎で参加の申し込みにはばらつきがあった。また、研修申し込みをしたが、なかなか参加できなかった先生もいた。参加できる体制の整備及び参加奨励を積極的に行いたい。
- 「他校の実践に学びたい。」という声が多かった。参加者による実践報告、テーマ別実践交流、ワークショップ等参加型研修を、次年度も多く取り入れたい。



# 人材育成の取り組み

田川郡中学校長会

本年度、田川郡中学校教育研究会は、会員数が昨年度よりも増えて88名となった。そこで研究会を、スキルアップ研修、ミドルリーダー育成研修、管理職育成研修の三部会で構成し、参加教員のキャリアステージやキャリア発達に応じて研修会を実施した。

研修内容については、以下のとおりである。

	スキルアップ研修	ミドルリーダー育成研修	管理職育成研修
1	総会・研修会 「学校力の向上」		
2	保護者と接する基礎基本	ミドルリーダーの役割	教育実践記録のまとめ方
3	授業づくりの基礎基本	学習指導案の見方・指導	教育施策及び国・県の動向
4	合同研修講演会 「子どもの貧困から考える学校の役割」		管理職試験面接練習
5	授業づくりの基礎基本	危機管理について	管理職試験面接練習
6	人間関係づくりの基礎基本	実務交流	管理職試験面接練習
7	授業づくりの基礎基本	OJTについて	管理職試験面接練習

研修会の講師としては、校長会、教頭会を中心としながらも、筑豊教育事務所指導主事、福岡県教育センター指導主事、スクールカウンセラー、福岡県立大学准教授に依頼し、専門的立場からの講義・演習を受けることができたことは参加者にとっては非常に有益であった。また、スキルアップ研修会においては、ミドルリーダー育成研修会に参加している会員に、若年教員の指導者としての参加を促し、ミドルリーダーとしての指導力・意識の向上を図ることができた。

本年度一年間で行った研修の成果と課題については、参加者のアンケート等を参考に、中学校教頭会で以下のようにまとめた。

## 【成果】

- 継続的に研修会に参加している会員にとっては、研修内容は有益であった。
- 演習を中心とした内容であったため、参加者同士で交流が持てたことが良かった。
- 数多くの若い教員の参加があった。また、研修内容（保護者とのトラブルの回避等）を自分の実践に生かしていることがアンケートにより分かった。
- 授業づくりの内容では、各教科毎に授業づくりに関する質疑応答や、授業づくりに関する悩みなどが交流でき、今後の自分の授業実践についての見通しを持つことができた。

## 【課題】

- 理論的な研修は定着したので、今後は実務的な研修を少し多めに取り入れる必要がある。
- 実務交流については、参加者の校務内容（教務、生徒指導主事、研究主任等の主任・主事）別に行うと共に、司会・進行をミドルリーダーに任せることで人材育成に関する意識の向上を図る必要がある。

- 研修スタイルが定着してきたからこそ、更に充実した内容づくりを行う必要がある。その際、会員に対して「どんなことを学びたいのか」「何が課題と考えているか」等を行うアンケートを実施し、より会員のニーズに合った研修会にしていく必要がある。

来年度は、国や県の教育に関する動向や本年度の成果と課題をもとに、研修体系・研修内容を精査し、参加者にとって更に有意義に感じられる研修会を行うことで、教師の実践的指導力の向上とキャリアステージに応じた職能成長を図っていきたいと考える。

## 小学校教科等部会 活動報告

**【国語科部会】** 校長 白石 毅

第1回 講話「今求められる 田川郡小学校の国語科授業」  
講師 川崎町立川崎中学校 教頭 松崎 弘明 先生

第2回 講話「学びの質が変わる！見方・考え方を働かせた国語科授業づくり」  
講師 筑豊教育事務所 岡松 賢吾 指導主事

第3回 授業研修会  
授業者 小学校  
教諭 伊藤有紀 先生

単元名 説明の仕方について、自分の考えをまとめよう「天気を予想する」

第4回 講話「今後求められる国語科の授業づくり」  
講師 筑豊教育事務所 岡松 賢吾 指導主事

**【社会科部会】** 校長 森 秀二

第1回 社会科の授業づくりの説明  
今後の実践計画

第2回 演習 単元指導計画の作成  
講話「1単位時間の基本的な指導過程」  
講師 筑豊教育事務所  
近藤 暢威 指導主事

第3回 授業研修会  
授業者 谷口 祐有季 先生  
指導助言 筑豊教育事務所  
川波 麻里 指導主事

第4回 実践発表  
西本 直 先生  
地域教材活用事例交流と年間のまとめ

**【算数科部会】** 校長 縄田 和之

第1回 部会長からの問題提起と方向性決定  
組織作り及び各部会の年間計画作成

第2回 実践発表「あたりまえを問い直す」

第3回 赤小学校 授業研究会への参加  
【筑波附属小：田中博史先生】  
※ 各部会ごとに実践

第4回 実践発表  
「見方・考え方を鍛えるフラッシュカード」  
※部会ごとの実践交流会 ※年間総括

**【理科部会】** 校長 小島 誠治

- ・実践交流、指導方法についての情報交換
- ・講師招聘実技研修会  
※ 台風接近のため中止
- ・福岡県小学校理科教育研究大会並びに筑豊地区小学校理科教育研究大会  
4年「ものの温度と体積」  
公開授業者 小学校 森 一滋 先生  
その他研究大会参加
- ・実践交流及び協議、本年度のまとめ

**【生活科・総合的な学習の時間部会】** 校長 益田 茂

I 組織づくりと活動計画案の作成、情報交換

II 講師招聘による研修会  
実習：ミニスイーツづくり（7月）  
講師：キッチンタカセ 高瀬 努 氏

III 実践発表（1月）  
生活科・総合的な学習教育県大会実践報告  
「プログラミング的思考を育てる学習指導」  
発表者： 金高 正俊 先生

IV ミニ研修：Legoを使った学習体験  
本年度の反省とまとめ

**【音楽科部会】** 校長 中野 寿

- 組織作り及び年間研修計画 情報交換
- 講師招聘研修会（講話）  
福岡県教育センター 教育指導部 教科教育班  
指導主事 中原 真吾 氏
- 音楽部会 授業研修会（場所：今任小学校）  
・授業者 中園 佳代 先生（今任小6年）  
・教材名 6年 和音の響きを感じ取ろう  
・指導助言 筑豊教育事務所 教育指導室  
指導主事 川波 麻里 氏

# 小学校教科等部会 活動報告

## 【図画工作科部会】 校長 金子 祥二

- 6月 組織作りと活動計画作成  
実技研修「色のへんしん」
- 7月 実技研修「モダンテクニック」  
(マーブリング等) 及び作品の相互鑑賞
- 8月 筑豊地区小図工研究会実技研修会参加
- 12月 県小児童画展田川郡審査(真崎小)  
県小児童画展筑豊地区審査(宮若西小)
- 1月 実践レポート綴じ合わせと実践交流  
及び本年度のまとめ

## 【家庭科部会】 校長 縄田 房枝

- 組織づくりと年間活動計画
- 実技研修会  
講師:「幾重の会」の方々  
内容:実技講習「豆腐づくり」
- 筑豊地区小学校家庭科教育研究大会参加  
「自らよりよい生活を創り出す子供の育成」  
～家庭・地域とつながる  
学習指導家庭の工夫を通して～
- 授業実践交流会と本年度のまとめ

## 【体育科部会】 校長 石堂 昌彦

- 第1回部会 6月25日(金田小)  
組織づくりと年間計画及び4部会の情報交換
- 第2回部会 7月25日(金田小)  
実技講習(体づくり運動)4部会実践交流
- 第3回部会 11月16日(採銅所小)  
授業研 久富 光太郎 教諭  
・セストボール「チーム丸採銅所カップ」  
指導助言 中学校 中瀬 博之 教頭
- 第4回部会 1月22日(金田小)まとめ

## 【道徳部会】 校長 植村 徹也

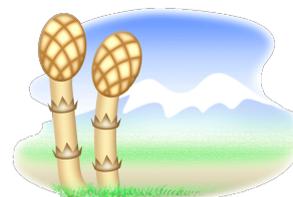
- 第1回部会 6月25日(今任小)  
・組織作り  
・講話 筑豊教育事務所指導主事手嶋圭吾先生  
「今、求められている道徳科学習指導と評価の在り方」
- 第2回部会 7月30日(今任小)  
・台風12号接近の為中止
- 第3回部会 11月20日(今任小)  
・授業研修会 教諭 木下直哉先生  
・第5学年 主題「たいせつなきまり」題材「通学路」
- 第4回部会  
・実践発表・実践の交流及び情報交換

## 【外国語活動部会】 校長 森 隆子

- 第1回 組織づくりと年間計画及び情報交換
- 第2回 講話・演習  
「英語科に向けた外国語活動の在り方」  
講師 筑豊教育事務所  
中西 由恵指導主事  
正野崎・中園エリアマネージャー
- 第3回 授業研修会 上野小5年  
角谷 朋恵 教諭  
JTE 東田 尚己 講師  
「ALTに自己紹介をしよう(We can!1 Unit1)」  
指導助言 筑豊教育事務所  
中西 由恵 指導主事
- 第4回 実践報告と本年度のまとめ

## 【特別活動部会】 校長 川上 三千夫

- 第1回部会 6月29日(中津原小学校)  
・組織作りと活動計画、情報交換(歓迎集会)
  - 第2回部会 7月25日(中津原小学校)  
・実践報告(大久保先生、柳井先生)
  - 第3回部会 1月11日授業研修会(川東小)  
・「公開授業」～6年1組(柳井先生)  
・「公開代表委員会」～(児童会担当)
  - 第4回部会 1月22日(中津原小学校)  
・今年度のまとめと次年度の方向性について
- \* 12月5日筑豊地区大会(金田小)  
～部会員参加



**【特別支援教育部会】 校長 吉松 信吾**

1. 組織づくり、年間活動計画及び情報交換
2. 講師研修会  
講師：中学校  
指導教諭 相川 佳子 先生  
講話：「特別支援教育の具体的実践」
3. 研修報告及び実践交流会（まとめ）  
報告者：小学校  
教諭 児玉 啓子 先生  
「専門研修で学んだ事」  
実践交流（まとめ）  
体的実践交流（教材教具）  
推進体制 等



## 中学校教科等部会 活動報告

**【国語科部会】 校長 村上 きぬよ**

- ・総会及び研修会（6/14）  
組織づくり、年間計画作成
- ・田川郡中学校書写大会（10/9）
- ・公開授業研究会（11/6）大任中学校  
**【授業者】**  
教諭 後藤 健太 先生  
**【単元】** 2年関わりの中で「モアイは語る」
- ・JA作文募集及び審査

**【社会科部会】 校長 安藤 志保美**

- 研究主題  
思考力・判断力・表現力を高める  
社会科学習指導の研究
- 第1回研修会 6月14日 川崎中学校  
組織づくり 研修計画作成 活動内容確認
- 第2回研修会 11月13日 赤池中学校  
公開授業者 野村 純平  
単元名（公民）生産と労働
- 研究紀要執筆・審議 11月～1月  
研究員 杉野 大作（香春中学校）

**【数学科部会】 校長 堀川 浩昭**

- 第1回部会（6月14日）  
研究主題、研修計画作成、活動内容の確認
- 第2回部会（公開授業：10月11日）  
・授業者：中学校 今道 憲治 先生  
・単元名：第2学年 「一次関数」
- 第3回部会（公開授業：11月14日）  
・授業者：中学校 後藤 継善 先生  
・単元名：第1学年 「変化と対応」  
・全体協議会
- その他（年間のまとめ等）

**【理科部会】 校長 松内 隆泰**

- 総会（6月）【於 香春中学校】  
組織づくり、研修計画作成
- 公開授業（11月）【於 赤池中学校】  
・授業者：原田 雅貴 先生  
・単元名：「水溶液」
- 実験講習会（11月）【於 大任中学校】  
・講師：福永 志織 氏 [(株) ナリカ]  
・内容：演示、観察・実験

# 中学校教科等部会 活動報告

## 【音楽科部会】 校長 河野 康世

- 組織・活動計画策定（6月）
- 研修・公開授業（11月）
  - ※中学校音楽研究会県大会と兼ねる
  - 題材名「郷土の音楽を自ら味わう活動の工夫  
～大分の獅子舞音楽を味わおう～」
  - 授業者 筑穂中 堤 千江子 先生
  - 講師 筑豊教育事務所
  - 指導主事 川波 麻理 氏
- 各校合唱コンクールへの協力体制づくり
- 研究のまとめおよび紀要の原稿審議（12月）
  - 執筆 金田中 田端 幸彦 先生

## 【美術科部会】 校長 伊藤 敬之

- 総会及び研修会（6月 赤中学校）
  - ・組織づくり、年間計画作成
- 第4回九州図画工作・美術教育研究大会  
兼 第62回福岡県中学校美術教育研究大会への参加（11月16～17日）
  - 太宰府西中学校他3校
  - 講演「デザインは公共のために」
  - 講師 水戸岡 鋭治 氏
- 福岡県及び筑豊地区中学校美術作品展での作品展示（2月）

## 【保健体育科部会】 校長 栗林 秀幸

- 第1回 保健体育科部会（6月14日（木））
  - 組織づくりと年間指導計画の作成
  - スポーツ傷害における初期治療の最新動向
  - 講師 原口 正秀氏（原口整骨院院長）
- 公開授業（10月26日（金））
  - 福岡県中学校保健体育研究発表会において
  - 単元 スポレック（ニュースポーツ）
  - 授業者 中学校 井上 誠 教諭
- 第2回 保健体育部会  
まとめと次年度の組織体制づくり

## 【技術・家庭科部会】 校長 縄田 哲也

- ・総会（6月 糸田中学校）
  - 組織づくり、年間活動の作成及び確認
- ・技術分野夏期ものづくり研修  
8月7日 赤池中学校  
「ものづくりと工具の安全な使い方」
- ・公開授業（家庭科）研修会  
11月9日 中学校 池田 さつき  
「食生活と自立」
- ・第21回福岡県中学校技術・家庭科作品展運営

## 【英語科部会】 校長 井上 修一

- 総会及び研修会（6月）
  - ・組織づくり 年間計画作成
  - ・研究主題 「生きる力」を育む英語科学習指導の研究
- 公開授業（11月） 中学校
  - ・授業者 福田 和憲 先生
  - ・題材名 Unit6「Striving for a Better World」
- 研究協議（11月）
  - ・授業における主題達成の手立てと有効性について考えるグループ協議

## 【道徳部会】 校長 井上 修一

- ・総会及び研修会（6月25日）
  - 組織づくり、年間計画作成
- ・公開授業研究会（11月8日）
  - 【授業者 中学校 岩野 桃香 先生】
  - 中学校2学年1組
  - 主題 「遵法精神」
  - 内容項目【C-10 遵法精神 公德心】
  - 指導主事を招聘しての事後研修会

# 中学校教科等部会 活動報告

## 【総合的な学習の時間部会】校長 白石 俊幸

本年度の研究テーマ

「総合的な学習を通して生き方を考える」

6 / 25 田川地区総合部会…組織、役割分担  
研究員 太田直子教諭

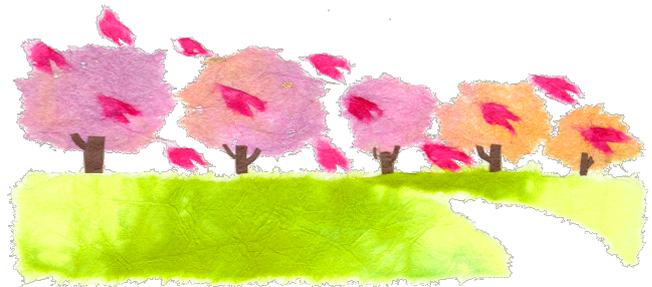
11 / 29 福岡県中学校総合事例報告会 参加  
(北九州市教育センター 於)  
・事例報告…秋月中、八見中  
・講演…四ヶ所清隆氏

## 【特別活動部会】校長 松内 隆泰

○総会6月25日 【於 香春中学校】  
組織づくり、年間活動の作成及び確認

○実践研究及び紀要執筆  
「食育の観点を踏まえた弁当づくりと望ましい食習慣の形成への取り組み」  
～家庭と連携した自立弁当づくりを通して～  
中学校 教諭 満生 剛 先生

○第23回福岡県中学校特別活動研究大会参加  
(太宰府中央公民館プラムカルコア)



## 平成30年度 教育実践発表者の紹介

### ◆平成30年度 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会

◇ 教諭 宮村 歩 先生

『統計リテラシーを高める算数科学習』

～PPDACサイクルに位置付けた学習活動の工夫を通して～

### ◆第47回 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会

◇ 教諭 加藤 睦 都 先生

『自らよりよく生きようとする生徒を育てる道徳科指導』

～対話的活動の工夫を通して～



## 平成30年度 研修員研修会を終えて

### 『友達と協働しながら音楽をつくる楽しさを味わう児童の育成』 ～「音楽ゲーム」「音楽コミュニケーション」を位置づけた活動構成を通して～

小学校 教諭 中 園 佳 代

本研修を通して、自分の実践を丁寧に振り返ることの大切さを学ぶことができました。これまで、授業に対して「どうして上手くいかないのだろう。」と悩んでいたことも、実践を細かく分析していくことで、多くの課題を見つけることができました。また、見つけた課題から授業改善を行い、実践することで、学習に取り組む子どもたちの姿に変化が見られ、成果や新たな課題を明らかにすることができました。このように、実践を振り返ることで、授業力を高めていくことができ、より子どもたちの力を伸ばしていくことができると考えます。今後も、本研修で学んだことを生かして、日頃から、実践を振り返る時間を大切にしていきたいと思えます。一年間、ご指導ありがとうございました。

### 『考えを広げ深める国語科学習指導のあり方』 ～見方・考え方を働かせる問いの工夫と振り返り活動の設定を通して～

田小学校 教諭 伊 藤 有 紀

今年度、このような研修の機会を与えていただき、ありがとうございました。私は、本研修を通して、意図的・計画的に実践を行い、実践したことを振り返ることの大切さを学びました。これまでの実践を振り返ってみると、計画を立て、指導を行うだけで、授業の課題を見つけたり振り返ったりすることができていませんでした。ご指導をいただく中で、子どもを見る視点や方法、実践を振り返り、まとめる方法を教えていただき、自分の実践の課題を見つけることができました。今後、本研修で学んだことを生かし、子どもたちが楽しく学び、力をつけることができるよう、私自身が学び続けていきたいと思えます。一年間ご指導していただき、本当にありがとうございました。

### 『論理的に書いて伝える力を育む国語科学習指導』 ～文章構成フォーマットを取り入れた学習過程を通して～

中学校 教諭 後 藤 健 太

本研修を通して、自身の授業実践を振り返ることの大切さを学ぶことができました。これまで、自身の授業実践について振り返るという作業はほとんど行えていませんでした。そのため、生徒にどのような力が付いたのか、その力を付けるためにどの手立てが有効であったのか、などを考えることはほとんどありませんでしたし、その方法も知りませんでした。しかし、指導員の先生方のご指導により、検証の仕方や論のまとめ方などについて理解することができ、自身の実践を振り返ることができるようになりました。今回の研修で学ばせていただいたことを今後の実践に生かし、常に計画性をもって授業を行い、きちんとした振り返りをして、よりよい授業をつくっていきたくです。一年間ご指導いただきありがとうございました。

### 『社会的な思考力・判断力・表現力を育成する社会科学習指導の研究』 ～資料読解や自分の考えを表現する活動を通して～

中学校 教諭 井 上 裕 太

本研修を通して、研究の方法や論文のまとめ方を学ぶことができました。意図的・計画的に単元の学習計画を立て、実践と考察を通して手立ての有効性を検証するという研究サイクルの重要性を知ることができました。今後もこのサイクルを継続し、研究を深めていきたいと思えます。また、本研修に取り組む中で、日ごろの自分の授業を見直し、多くの課題と向き合うこともできました。

本研修に1年間取り組み、教師としての力量を高めるための努力をすることができて幸いでした。今後も生徒が「学びたい」と感じるような授業をつくっていけるよう研究と修養に努めたいと思えます。1年間ご指導いただきありがとうございました。

## 平成30年度 ふくおか教育論文 応募者・入賞者

No.	所属校名	職名	氏名	応募部門	応募内容	受賞
1	小学校	教諭	村上 唯	学校教育	算数・数学	
	数学的な思考力・表現力を高める算数科学習指導					
2	小学校	教諭	福壽 翔太	学校教育	国語	
	「読む力」を高める国語科学習指導					
3	小学校	教諭	稲富 秀美	学校経営・運営	校内研修	
	主題研究をより日常の教育実践につなげるための取り組み					
4	小学校	教諭	楠木文太郎	学校教育	国語	優秀賞
	主張と材料の整合性を吟味して適切に表現する力を育てる第6学年国語科学習指導					
5	中学校	教諭	加藤 睦都	学校教育	道徳	
	自らよりよく生きようとする生徒を育てる道徳指導					

## 平成30年度 田川郡教育研究所教育論文 応募者・入賞者

No.	所属校名	職名	氏名	応募部門	応募内容	受賞
1	小学校	教諭	福壽 翔太	学校教育	国語	優良賞
	主体的に自らの読みを深める第1学年国語科「読むこと」の学習 ～子どもが主体的に言語活動を展開する単元構成の工夫を通して～					
2	小学校	教諭	東 亜樹	学校教育	算数・数学	
	進んで問いをもち、学び続ける子どもを育てる算数科学習指導 ～「問いづくり」「思考づくり」「価値づくり」を促す発問の工夫を通して～					
3	中学校	教諭	岩野 桃香	学校教育	道徳	
	道徳的価値を自分自身のこととして捉え、自己の生き方についての考えを深める道徳科の在り方 ～自己理解をする場を位置づけた授業構成と自己を振りかえる学習活動の工夫～					

### ◆『教育実践研究に関する研修会』受講者

No.	所属校名	職名	氏名	教科等
1	小学校	教諭	福壽 翔太	国語
2	小学校	教諭	林 健二	算数
3	中学校	教諭	岩野 桃香	道徳



## ◆『講師等授業力アップ講座』受講者

No.	所属校名	職名	氏名	教科等
1	小学校	講師	金山かなえ	国語
2	小学校	講師	岡野 敏之	国語
3	小学校	講師	辻 沙智代	国語
4	小学校	講師	上村 智沙	国語
5	小学校	助教諭	谷村恵之介	国語
6	小学校	講師	金高 正俊	国語
7	小学校	講師	堀川 純規	理科
8	中学校	講師	佐藤 愛実	英語
9	中学校	講師	糸長香代子	英語



## 食育だより

栄養教諭 鍋 藤 君 江

田川郡内の学校給食について紹介いたします。実施状況は、下記の通りです。

(小・中学校35校：分校を含む)

単独調理場方式	小・中学校8校
共同調理場方式	小・中学校27校

単独調理場方式 小・中学校8校 共同調理場方式 小・中学校27校 各町村・各学校ごとに食数、給食費、調理場方式等は様々ですが、衛生管理の徹底を図りながら安全でおいしい給食作りに取り組んでいます。

月ごとに児童生徒が実際に食べた栄養価、パン・米飯・牛乳・副食別の残食率等を栄養報告書として提出しています。

課題として主食の残食率が10%を超える学校もあり、成長期に必要な栄養価を確保できていない点があげられます。特に給食用パンは市販のパンと違い、そのままおいしく食べられるよう中心まで良く火を通しており、定期的な品質審査会や立ち入り検査を行いながら品質の維持向上に努めています。

## 養護だより

養護教諭 相 緒 美由紀

田川郡学校保健会では11月21日に飯塚市と桂川町のフリースクールと北九州市の環境ミュージアムの視察研修をしました。

午前中は「みんなのおうち」を訪問しました。飯塚市のフリースクールは、元保育園舎を利用した学校生活に準じた施設で、桂川町の子どもの居場所は元個人住宅で家庭生活経験の施設でした。不登校を経験した代表者の芳野さんの説明によると、スタッフは子どもたちの「自立」をめざして、①信じて待つ②力を尽くす③そっといなくなるという段階で支援していくということでした。入所だけでなく相談も受け付けていますが、いずれも有料なので田川からの利用はむずかしいと感じつつ、不登校等子どものことに悩む教職員や保護者等に紹介できると思いました。

午後からは「北九州環境ミュージアム」を訪問しました。公害のまちからエコタウンへの変遷についての見学とエコ住宅のモデルハウスやエコカーの説明をしていただきました。一日を通して大変有意義で充実した研修ができました。

また、精米は田川地区でとれた新米1等米で、重金属検査、残留農薬検査、DNA検査を行い、毎週玄米をとう精して各学校に配送されています。

残食率を減らすには、提供する側（調理場等）と学校との意見交換を十分に行い、食材の選定や給食が作られる過程を知らせるなど、学校給食が児童生徒にとって生きた教材となるよう、関係者が協力して様々な角度から取り組む必要があると思います。

た。

1月18日には、第2回講演会で産業医科大学若松病院整形外科診療科長の内田宗志先生をお招きしました。「子どものスポーツ外傷と運動器検診について」という演題で事例をたくさん紹介していただきながらの講演で、運動習慣激減の子どもたちの骨や関節の状態、スポーツ外傷の予防やケアについて学ぶことができました。ロコモ（運動器症候群）による衰えも今後の学校保健の課題です。

## 田川郡教育研究所

[所在地] 〒825-0002  
田川市伊田3292-2 田川総合庁舎 筑豊教育事務所田川駐在内  
[TEL・FAX] 0947-47-1081  
[E-mail] tagawa-lab@fukuoka.email.ne.jp  
[URL] <http://tagawa-lab.sakura.ne.jp/>

所長	高橋 孝徳	副所長	白石 毅
副所長	安藤志保美	書記	鹿川 真澄
幹事	白石 毅	主任指導員	相緒 英樹
主任指導員	山中 祥道	指導員	田代 輝浩
指導員	森 孝太郎	指導員	松内 暢子
指導員	中川 靖		